

ArTra Group

アトラグループ株式会社

2026年12月期

第2四半期（中間期）決算説明資料

2026年8月7日

アトラグループ株式会社（東証スタンダード市場：6029）

I. 業績ハイライトと財務状況

1. ハイライト
2. 業績サマリー（連結P/L主要指標）
3. 営業損益のブリッジ分析（ウォーターフォール）
4. セグメント別業績詳細 + A-COMS事業KPI
5. リスクと対策
6. 貸借対照表（B/S）構成比推移
7. 中間連結キャッシュ・フロー計算書の概況
8. 有利子負債・自己資本比率の推移

II. 業績予想・成長戦略・トピックス

9. 通期業績予想（修正後）と進捗率
10. 成長戦略全体像（A-COMS拡張ロードマップ）
11. クオンタムリープとの資本業務提携
12. A-COMS周辺領域の拡大施策
13. トピックス
14. 参考資料

H1 FY2026 Key Messages

01

営業利益・経常利益が
大幅増益基調へ

+81百万円

(前年同期：+25百万円)

前年同期比+217.8%の大幅増益を達成。
A-COMS事業の増収増益と販管費効率化が寄与。
本業の収益基盤は一段と強化。

02

A-COMS事業は
増収増益を達成

+8.5% / +49.9%

売上1,245百万円 / 利益87百万円

サブスク型基盤（アトラ請求+5.8%）を軸に支
援6領域すべてが増収。鍼灸接骨院基幹システ
ムとしての市場地位を強化。

03

通期予想を上方修正
→ 純利益は黒字転換へ

160百万円

通期営業利益（前回予想：120百万円）

上期が前回予想を上回って着地し、通期を売上
高2,700・営業利益160百万円へ上方修正。
純利益も△25→+15百万円と黒字転換見込み。

▶ コア事業は増収増益、通期予想も上方修正。一過性損失で中間純損益は赤字も、通期は黒字転換を見込む。

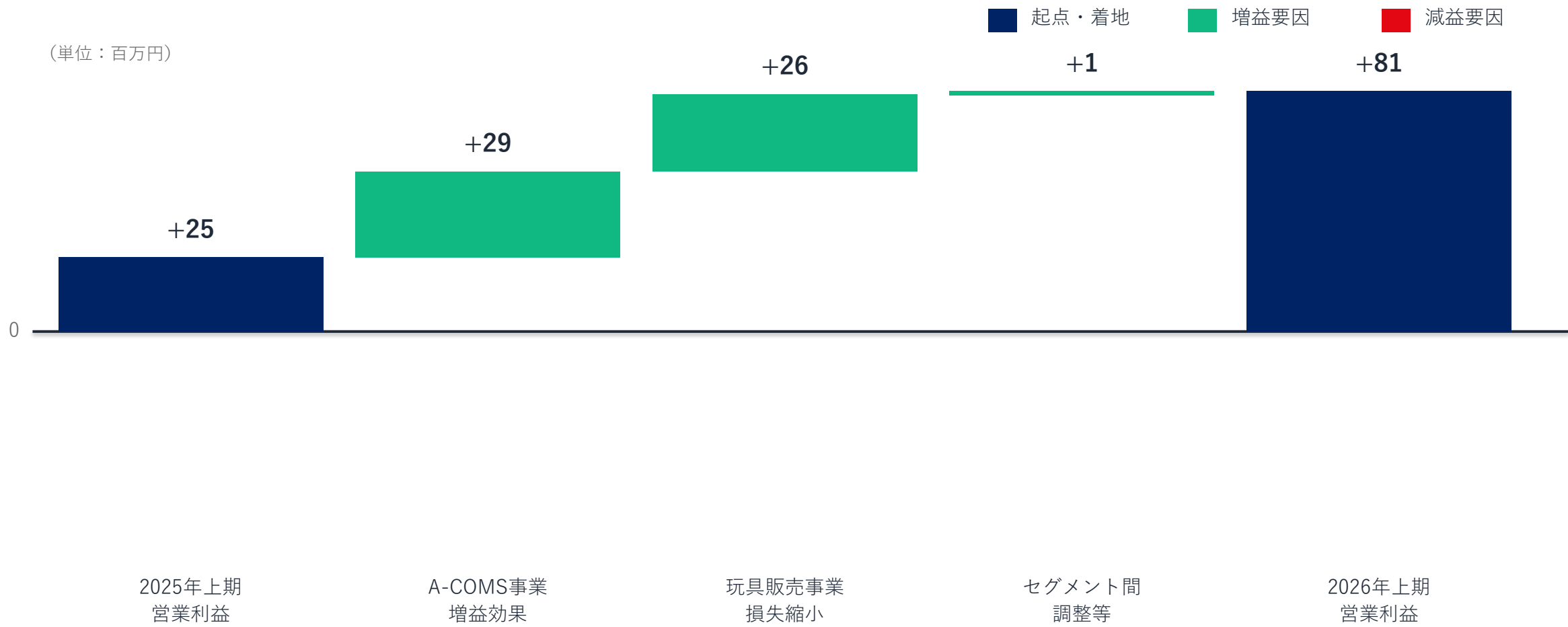
減収（▲14.0%）は玩具事業譲渡の影響。コア事業の増収増益で営業・経常利益は大幅増益も、一過性損失で純損益は赤字。

指標	2025年12月期 第2四半期 (前年同期)	2026年12月期 第2四半期 (当期)	増減額	増減率
売上高	1,883	1,619	△264	△14.0%
売上総利益	644	578	△66	△10.3%
(売上総利益率)	34.2%	35.7%	+1.5pt	—
販管費	618	496	△122	△19.8%
営業利益	25	81	+56	+217.8%
経常利益	30	91	+61	+201.5%
親会社株主に帰属する 中間純損益	115	△45	△160	一過性
(単位：百万円)				

なぜこの数字か（要因分析）

- 売上高 1,619百万円（▲14.0%）
 - ・ A-COMS事業 +8.5%（1,245百万円）
 - ・ 玩具販売事業 ▲49.1%（373百万円）
- 営業利益 81百万円（+217.8%）
 - ・ 売上総利益率 34.2% → 35.7%へ改善
 - ・ 販管費 ▲122百万円（▲19.8%）
 - A-COMS事業の増収増益とコスト効率化が寄与
- 中間純損失 ▲45百万円（前年同期は+115百万円の黒字）
 - ・ 関係会社株式売却損 ▲130百万円（一過性）
 - ・ 本売却損はキャッシュアウトを伴わず
 - 将来の収益拡大に向けた変革コスト（非資金損失）

A-COMS事業の増益（+29）と玩具販売事業の損失縮小（+26）が、営業利益81百万円への大幅拡大を牽引。



▶ A-COMS事業の増益（+29百万円）と玩具販売事業の損失縮小（+26百万円）が牽引し、営業利益は前年同期比+217.8%の81百万円に拡大。

A-COMS事業は増収増益を達成。経営インフラであるアトラ請求サービス（+5.8%）が基盤を牽引し、上期は支援 6 領域すべてが増収。

■ 報告セグメント別業績（2026年上期）

セグメント	売上高	前年同期比	セグメント利益／損失
A-COMS事業	1,245	+8.5%	+87
玩具販売事業	373	△49.1%	△7
合計（調整前）	1,619	△14.0%	+81

（単位：百万円）

玩具販売事業：2026年3月末で連結除外

- ・ 売上373百万円（前年同期比△49.1%）
- ・ セグメント損失△7百万円
→ 前年同期（△33百万円）比で26百万円改善
- ・ 2026年3月31日付で全株式を譲渡し連結除外

■ A-COMS事業 支援内容別売上（2026年上期）

前年同期比

機材・消耗品販売	318百万円	(+0.6%)
アトラ請求サービス	316百万円	(+5.8%)
ほねつぎチェーン	289百万円	(+12.1%)
介護支援	218百万円	(+5.1%)
HONEY-STYLE	62百万円	(+85.8%)
その他	40百万円	(+22.2%)

A-COMSハイライト

国内約50,000院の鍼灸接骨院市場のうち約3,000院に導入実績。
サブスク基盤 + 自費施術機材の 2 軸で、療養費依存からの脱却を加速。

一過性損失と療養費減少を認識。コア事業の増収増益と具体的対策で収益体質を強化。

リスク要因

① 中間純損益の赤字（関係会社株式売却損）

玩具販売事業の譲渡に伴う関係会社株式売却損130百万円の計上により、中間純損益は△45百万円の赤字。

② 鍼灸接骨院市場の療養費減少

保険収入（療養費）減少傾向が継続。業界全体の構造課題。

③ 連結売上規模の縮小（▲14.0%）

玩具販売事業の譲渡により連結売上高は1,619百万円へ縮小。通期も2,700百万円と前期比▲31.2%の見込み。

④ 上方修正後の通期計画の達成

上期進捗率は営業利益51.0%・経常利益55.4%。上方修正後の計画達成には下期の実行力が必要。

対策・見通し

営業・経常利益は大幅増益

本売却損は非資金損失。営業利益+217.8%、経常利益+201.5%と本業の収益力は大幅強化。通期は純利益の黒字転換を見込む。

自費施術領域へのシフトと高採算オリジナル機材販売

AIデバイス「アトラゲージ」等の独自機材を拡販。営業活動・セミナー強化により自費施術機材の市場開拓を加速。

売上規模より利益率・利益額を優先する経営方針

コア事業のA-COMSは+8.5%の増収。売上総利益率は34.2%→35.7%へ改善し、スリムかつ高収益な事業構造へ転換。

A-COMS事業の増益基調が継続

玩具販売事業の連結除外により下期は損失要因が消滅。サブスク型収益の積み上げで通期営業利益160百万円の達成を目指す。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

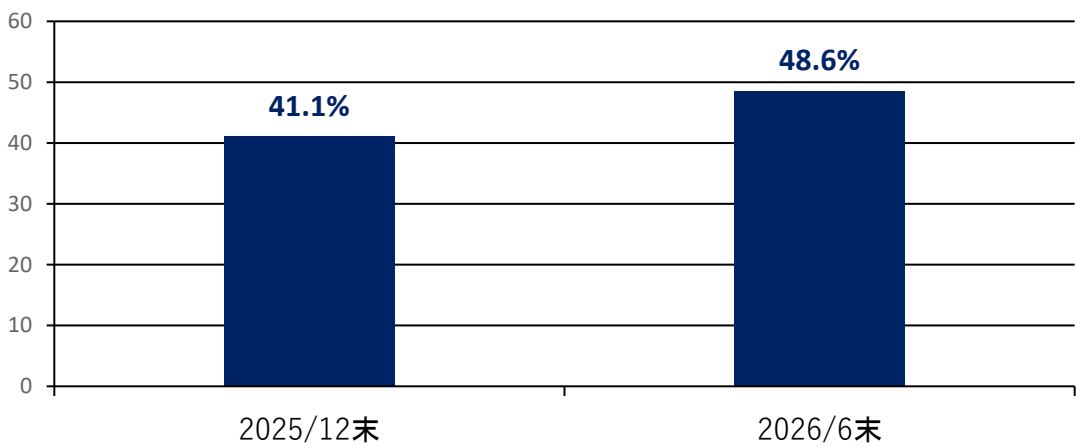
総資産は△732百万円圧縮も、自己資本比率は41.1%→48.6%へ大幅改善（+7.5pt）。財務体質は強化。

■ 主要B/S指標（連結）

指標	2025/12末	2026/6末	増減
流動資産	2,786	2,221	△565
固定資産	1,341	1,174	△167
（うち有形固定）	146	241	+95
（うち無形固定）	116	133	+17
資産合計	4,127	3,395	△732
流動負債	1,398	1,021	△377
（うち買掛金）	302	45	△257
固定負債	1,032	716	△316
（うち長期借入金）	797	555	△242
負債合計	2,431	1,738	△693
純資産合計	1,695	1,656	△39
自己資本比率	41.1%	48.6%	+7.5pt

（単位：百万円）

■ 自己資本比率の推移



+7.5pt 改善（41.1% → 48.6%）

買掛金△257百万円・長期借入金△242百万円の返済進捗、在庫圧縮△371百万円等で総資産は減少も、相対的に自己資本比率は大幅改善。

純資産△39百万円の主因

親会社株主に帰属する中間純損失△45百万円（うち関係会社株式売却損△130百万円）。純資産は安全水準を維持。

営業CFは+142百万円と大幅黒字。投資CFも収入超となり、現預金は+54百万円増加。

■ 中間期の連結キャッシュ・フロー（実績）

営業活動によるCF +142百万円

+ 大幅改善

- ・棚卸資産 +89百万円（在庫圧縮）
 - ・減価償却費 +43百万円／売上債権 +26百万円
 - ・仕入債務の減少 △187百万円
- 本業のキャッシュ創出力は黒字基調

投資活動によるCF +17百万円

収入超で着地

- ・定期預金の減少による収入 +100百万円
- ・子会社株式の売却による収入 +73百万円
- ・有形固定資産の取得 △139百万円
- ・無形固定資産の取得 △26百万円

財務活動によるCF △106百万円

△ 借入返済進捗

- ・長期借入金の返済 △105百万円
 - ・社債の償還 △5百万円
- 有利子負債の純減で財務体質強化

▶ 現金及び預金の推移

1,128百万円

（2025/12末）

→ 1,182百万円

（2026/6末）

+54百万円

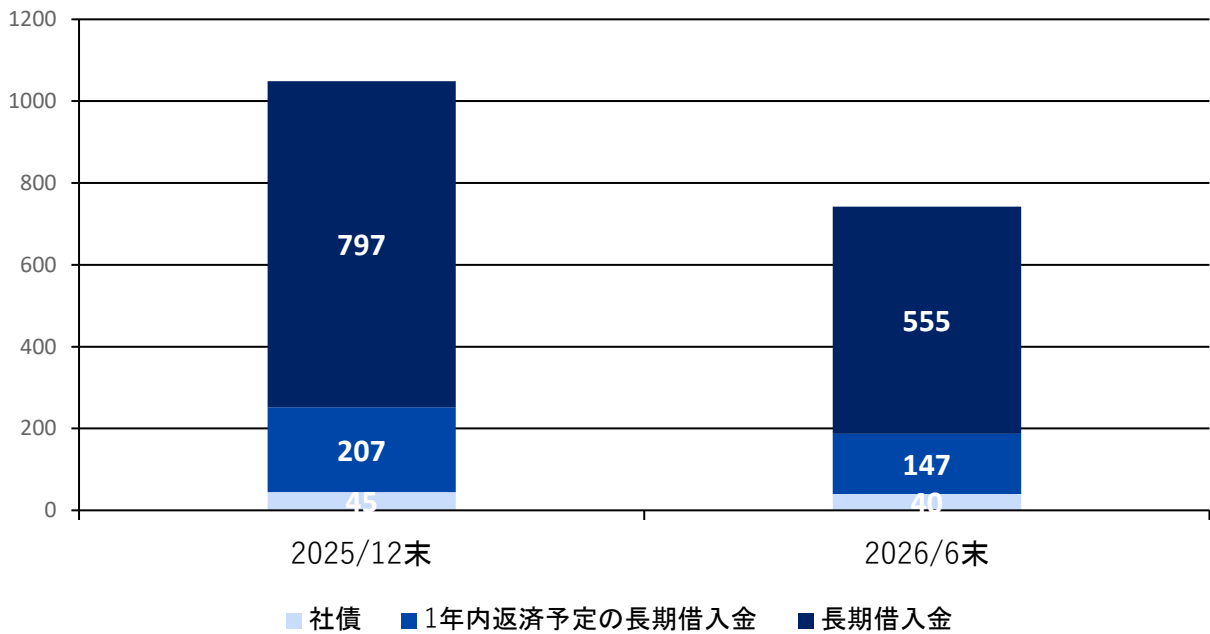
増加

▶ 在庫圧縮と子会社株式売却による収入を主因に営業・投資CFがともに収入超。借入返済を進めつつ現預金水準は増加し、下期の投資余力を確保。

※ 中間連結キャッシュ・フロー計算書（実績）に基づく。

有利子負債は△308百万円圧縮（1,050→742）。自己資本比率も41.1%→48.6%へ改善し、財務基盤は着実に強化。

有利子負債残高（連結）



合計：1,050百万円 → 合計：742百万円（△308）

自己資本比率（連結）

48.6%

+7.5pt 改善

自己資本比率改善の要因

- ① 長期借入金 △242百万円（早期返済を継続実行）
- ② 買掛金 △257百万円（資金繰りの改善）
- ③ 棚卸資産 △371百万円（在庫圧縮）
- ④ 総資産 △732百万円（負債圧縮と資産効率化）

※ 純資産は中間純損失△45百万円計上等により△39百万円減少だが分母（総資産）の圧縮効果が上回る

引続き有利子負債の圧縮と本業利益の積み上げで、財務健全性を更に強化。

（単位：百万円）

上期は前回予想を上回って着地。通期も売上高+300・営業利益+40百万円へ上方修正し、純利益は黒字転換へ。

■ 通期業績予想の修正（8月7日付）

指標	前回予想 (5/15公表)	今回修正	増減額	増減率
売上高	2,400	2,700	+300	+12.5%
営業利益	120	160	+40	+33.3%
経常利益	130	165	+35	+26.9%
親会社株主に帰属する 当期純損益	△25	+15	+40	—
1株当たり当期純損益（円）	△2.44	1.45	+3.89	—

（単位：百万円）

■ 上期時点の通期予想に対する進捗率

売上高	1,619/2,700（百万円）
60.0%	
営業利益	81/160（百万円）
51.0%	
経常利益	91/165（百万円）
55.4%	

▶ 修正の理由（要約）

- ① 売上高：2,400→2,700百万円（+300）。A-COMS事業の導入基盤拡大が寄与。
- ② 営業利益・経常利益：160/165百万円へ上方修正（+40/+35）。サブスク型継続課金とアトラゲージ等オリジナル機材の販売が計画超。
- ③ 純利益：△25→+15百万円で黒字転換（ペリカン連結除外による損失解消効果）。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

A-COMSプラットフォームを起点に、医療・矯正・美容・リラクゼーション市場へ段階的に拡張。リバース・エイジング提供基盤として収益機会を多様化。

アトラグループ既存事業領域

市場規模 9,850億円
※介護市場除く

鍼灸接骨院・介護事業

鍼灸

免疫・経穴・神経

ほねつぎ

骨・筋肉・関節

美容施術

π テラピー・マロン鍼

介護

抗加齢・機能回復

A-COMS（院内管理システム）

リバース・エイジング（若返り）提供のためのプラットフォーム

▶ 不採算事業／投資案件の選別とアクション → 経営リソースの最適化

段階的に拡大する成長市場

医療市場（整形外科等）

数十兆円規模

内整形外科関連8,000億円

歯科市場

数兆円規模

マウスピース市場
CAGR 30%、1,000億円（2030年予想）

エステ市場（美容施術）

数千億円規模

ビューティー × 機能回復

リラクゼーション市場

数千億円規模

予防・自費施術領域

▶ 段階的成長

▶ 市場環境： ①更に進む高齢化 ②医療費抑制の流れ ③自由診療化

▶ 顧客動向： ①健康への投資拡大 ②ニーズの多様化 ③境界線の希薄化

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© ArTra Group Corporation | 証券コード: 6029（東証スタンダード）

P.12

2025年12月に締結。最先端技術の取り込みでA-COMSプラットフォームの拡張領域を加速。

■ 提携の背景と目的

■ 提携締結時期

2025年12月（資本業務提携開示）

■ 相手先

クオンタムリープ株式会社
（ソニー元CEO出井伸之氏により設立、産業横断のイノベーション支援）

■ 背景

鍼灸接骨院市場の療養費依存からの脱却が業界全体の課題。
自費施術領域・周辺市場（再生医療・エステ・美容）への横断的展開
が求められる経営環境。

■ 目的

- ① A-COMSプラットフォームの拡張性を活かした
医療（再生・歯科）・リラクゼーション・エステ市場への展開
- ② クオンタムリープの最先端技術ネットワークを活用した
次世代「リバーサ・エイジング」サービスの共同開発

■ 期待効果（Equity Story）

①

市場規模の拡大

鍼灸接骨院（約50,000院）から
医療・美容・健康市場へTAM拡大

②

サブスク基盤の強化

新サービス展開によるARPU向上と
A-COMS継続課金モデルの深化

③

高採算オリジナル機材の拡販

アトラゲージ等のAIデバイスを
隣接市場へクロスセル

④

ブランド価値向上

「リバーサ・エイジング」コンセプトの
業界標準化を目指すブランディング

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

複数の技術領域・パートナー連携で、A-COMSの提供価値を「経営支援」から「予防・若返り支援」へ進化。

Tech① アトラゲージ（自社AIデバイス） 神経可視化・施術支援AIデバイス。 ・ 医師・施術家向け診療補助 ・ 自費施術領域の収益基盤を構築 ・ 高採算オリジナル機材として拡販中 ・ 上期売上は機材消耗品の中核を形成	Tech② ブレインテック領域 脳機能計測×施術データの融合。 ・ 自律神経・脳血流データの可視化 ・ 施術効果の客観評価を実現 ・ 「治す」から「整える」サービスへ ・ クオインタムリープ提携の重点領域	Tech③ 歩行センシング 歩行解析による予防・介護領域展開。 ・ ほねつぎデイサービスとの連携 ・ 転倒予防・要介護化抑制への貢献 ・ 介護支援セグメントの成長加速 ・ 上期介護支援売上 +5.1%伸長	Tech④ 大手企業連携（NEC等） ICT基盤・データ連携の高度化。 ・ 大手SIerとのアライアンス ・ A-COMSのSaaS化・拡張性向上 ・ サブスク収益基盤の更なる強化 ・ 上期アトラ請求 +5.8%継続伸長
--	--	--	--

▶ 単一技術ではなく「Tech×事業×パートナー」の組み合わせで、A-COMS基盤の拡張と独自性を確保。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨ではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2026年4月21日付でREMED社（韓国KOSDAQ上場・医療機器メーカー）とMOU締結。A-COMS基盤に磁気刺激治療技術を取り込み、自費施術領域の収益機会を拡大。

■ 業務提携の概要

■ 提携先

Remed Co., Ltd.（韓国KOSDAQ上場、コード：302550）

■ 事業内容

経頭蓋磁気刺激（TMS）・神経筋磁気刺激（NMS）・
衝撃波治療（ESWT）等、非侵襲的磁場治療機器の
開発・製造・販売（北米・欧州にも事業展開）

■ 締結日

2026年4月21日付（業務提携覚書（MOU）締結）

■ 提携の目的

医療・リハビリテーション・美容器具分野を含む
事業全般における相互協力の基盤を確立

■ 期間

署名日より1年間

▶ 当社業績への影響：軽微。中長期的に企業価値の向上に資する見込み。

■ アトラグループ成長戦略との接続

A-COMS × REMED社技術 — 自費施術メニューの拡充

NMS（神経筋磁気刺激）

接骨施術との親和性が高く、インナーマッスルトレーニング・慢性痛ケアの自費メニューを拡充

TMS（脳磁気刺激）

加齢・認知機能低下層へのアプローチ。「ナチュラル・リバーズ・エイジング」理念に合致

AI機器「アトラゲージ」連動

神経・筋肉の可視化→磁気刺激治療→経過管理をA-COMS上でデータ連動型に完結

■ 今後のスケジュール（予定）

項目	時期
業務提携覚書（MOU）締結	2026年4月21日（締結済）
詳細協議・個別契約の締結	2026年中（予定）
製品試験導入・評価	2026年中（予定）
販売・導入支援開始	2026年以降（予定）

■ 中間連結損益計算書（要約）

項目	前中間期 (25/1-6)	当中間期 (26/1-6)
売上高	1,883	1,619
売上原価	1,238	1,041
売上総利益	644	578
販管費	618	496
営業利益（損失）	25	81
営業外収益	12	15
営業外費用	8	5
経常利益（損失）	30	91
特別利益	92	1
特別損失（株式売却損 等）	1	130
税金等調整前中間純損益	121	△37
法人税等合計	5	8
親会社株主に帰属する 中間純損益	115	△45

（単位：百万円）

出典：第22期(2026年12月期) 第2四半期（中間期）決算短信、業績予想の修正に関するお知らせ

■ セグメント情報

セグメント	前中間期	当中間期	増減
A-COMS事業	1,148	1,245	+97
玩具販売事業	734	373	△361
合計	1,883	1,619	△264

■ セグメント利益（損失）

セグメント	前中間期	当中間期	増減
A-COMS事業	58	87	+29
玩具販売事業	△33	△7	+26
調整額	0	+1	+1
連結営業利益	25	81	+56

■ その他

- ・ 減価償却費 43百万円（前年同期 57百万円）
- ・ 百万円未満切捨てのため内訳の合計が一致しない場合がある

■ アトラ イノベーション ラボ

Natural Reverse Aging

日本独自の伝統技術と最先端テクノロジーによる若返りプラットフォーム（A-COMS）の提供

Natural Reverse Aging へのチャレンジ

ArTrA
INNOVATION
LAB

アトライノベーションラボ2026

2026.3.7 SAT

大阪・梅田

THE OSAKA STATION HOTEL, Autograph Collection



■ 企業理念

会社名	アトラグループ株式会社（Artra Group Corporation）
本社	大阪府大阪市西区立売堀4丁目6番9号
設立	2005年1月18日
上場証券取引所	東京証券取引所　スタンダード市場（証券コード：6029）
代表者	代表取締役会長兼社長　久世 博之（キュウセ ヒロユキ）
従業員数	73名（2026年3月末）
所在地	東京事務所　仙台事務所　福岡事務所
グループ会社	アトラファイナンス株式会社 アトラケア株式会社 アトラプランニング株式会社 株式会社ハッピーライフ



アトラグループ株式会社

免責事項

本資料に掲載されている計画、将来における予想などは作成時点で入手可能な情報に基づく見通しであり、リスク及び不確実性が含まれております。実際の業績は経営環境の変動などによりこれらと異なる可能性があります。

また、本資料に掲載されている情報は公開情報から引用したものがありますが、その情報の正確性について保証するものではありません。